



# ふれあい市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

## 南あわじ市の子育て支援 ～安心して子育てできるまちを目指して～

全国的に少子化が大きな問題となる中、南あわじ市でも昨年度の出生数は163人と、10年前の半分以下にまで減少しています。

南あわじ市では、「子育ての喜びが見えるまち」を目標に掲げ、若者や子育て世代に選ばれ、誇りを感じてもらえるまちの実現を目指しています。子育て期は人生の中でも特に大切な時間です。喜びと同時に、不安や困難を感じることもあります。だからこそ、困ったときに気軽に相談できる場所や人の存在が、親子の安心につながります。

市では、産後1年未満の方を対象に、助産師が訪問・日帰り・宿泊型で支援を行う「産後ケア事業」や、給付金と相談支援をセットにした「出産・子育て応援ギフト」など、多面的な支援を実施しています。また、授乳やおむつ替えスペース、大型遊具を備えた「子育て学習・支援センター」や、市内4地域で週2日程度開設される「出前ひろば」など、親子が交流できる場を設け、地域のつながりも大切にしています。

さらに、令和5年に設立した「南あわじ市子育て応援コンソーシアム」では、企業や市役所に学生も加わり、男女を問わず仕事と家庭を両立できる働き方の実現に向け、地域全体で取り組んでいます。

子どもたちが伸び伸び遊べる環境づくりにも注力しています。本市独自の放課後事業（アフタースクール）は、子どもたちが地域の大人に見守られながら多様な学びや交流を楽しめる場として、他自治体からも注目されています。校庭開放や従来の遊び場整備に加え、旧三原庁舎跡地では新たな公園整備に着手し、旧倭文中学校跡地では遊び場整備に向けたワークショップの開催準備を進めるなど、屋外・屋内の両面から、子どもの多様な居場所づくりを進めています。

子育て家庭の経済的な負担軽減にも取り組んでいます。小学4年生から高校生までの通院・入院時の医療費を原則無料とする「こども医療費助成制度」を設けているほか、国の交付金を活用した給付金事業でも子育て世帯を支援しています。この8月には物価高騰対策の一環として、市内の0歳から高校生等までの児童全員に「こども生活応援商品券（南あわじ市連合商店街プレミアム商品券）」を配布しました。使用期限は9月30日までで、市内の加盟店でご利用いただけます。

子育ては社会全体で支え合うものです。地域の一人ひとりが支援の輪に加わることで、子どもも親も笑顔で過ごせるまちづくりが実現します。南あわじの未来を担う多くの子どもたちが、このまちで生まれ、育っていくことを心から願っています。

## 吉備国際大学からのお知らせ

### 学生と地域がつながる「放課後事業」への参加広がる

5月に行われた守本市長の特別講演で、南あわじ市のアフタースクール（放課後事業）の意義や活動内容が紹介されました。講演を聞いた学生の間では、「自分たちにもできることはあるのか?」という声が上がリ、この問いかけが新たな地域貢献の動きにつながりました。

その後、教育委員会による説明会が学内で開催され、学生が放課後事業を支援するスタッフとしてどのように関わり、どんな役割を担えるのかが具体的に紹介されました。説明を聞いた学生からは、「私にもできるかもしれない」といった前向きな声が多く寄せられました。

説明会の後にはスタッフ登録会も実施され、事前に聞いていた学生だけでなく、偶然通りがかった学生や友人から話を聞いて興味を持った学生など、多

くの参加者が集まりました。

参加した学生からは、「子どもの頃に学童にお世話になったので恩返しをしたい」「子どもが大好きで力になりたい」など、さまざまな思いや経験が寄せられました。それぞれの特技や経験を生かし、地域の一員として貢献したいという熱意が感じられました。

このような学生の活動は、地域に根ざした社会貢献の精神を育む大切な機会です。今後も大学は、地域の皆さまとのつながりを深め、学生が積極的に地域に関わる場を広げてまいります。



教育委員会による事業説明

## 子ども議会開催 小学生が市議会議員に質問や提案

市内の各小学校から代表に選ばれた6年生の児童が議員となり、「南あわじ市の将来について」をテーマに、「南あわじ市子ども議会」が8月6日に開催されました。この取り組みは、次世代を担う子どもたちの意見を今後の市議会に生かすとともに、政治や行政に関心を持ってもらうことを目的に実施しています。



地域の魅力を発信する交流施設を提案する子ども議員

議会は2部構成で開催され、第一部は議長を務めた矢島裕佳子さん（阿万小）、第二部は副議長を務めた西心さん（倭文小）が進行しました。子ども議員からは観光や安全な遊び場、子どもの視点での魅力を発信する方法など、各小学校で話し合った内容について提案があり、市議会議員が丁寧に答弁しました。詳しくは、10月31日発行の「議会だより第87号」に掲載されます。



## 従業員の働きがいのある職場環境づくりに取り組みます 「子育て応援挑戦企業宣言」

本市では、仕事と子育てや介護の両立、男女共同参画の推進を目指し、産官学民が連携する「子育て応援コンソーシアム」を立ち上げ、課題の共有や情報交換を通じて、市内全体で子育てを応援する機運を広げています。7月24日、湊地区公民館で参画事業所（2期生）の代表者が「子育て応援挑戦企業」として、働きやすく働きたいのある職場づくりに取り組むことを宣言しました。



宣言した企業の代表者ら

宣言内容（一部抜粋）  
あわじ島農業協同組合  
DXへの取り組みを含めた業務効率化を図り、子育て時間創出のために有給休暇の取得と残業時間の抑制を促進します

社会福祉法人淡路島福祉会  
子育て・介護・自分時間の充実につながる福利厚生を拡充を推進します

淡路信用金庫  
子育てや介護等、役員がそれぞれの状況に応じて柔軟な働き方ができるよう、育児短時間勤務制度（小学校卒業まで利用可）をはじめとした既存制度の周知に努めます

ホテルニューアワジ  
ホテルニューアワジ  
プラザ淡路島  
子供を保育所に預ける時間、迎えに行く時間にあわせて短時間勤務など、勤務時間を柔軟に調整します

### 受賞おめでとうございます

- ◆兵庫県いずみ会会長表彰  
優良いずみ会リーダー  
阿部 摩利子さん（南淡支部阿万地区）  
奨励賞 飛田 量子さん（南淡支部潮美台地区）
- ◆兵庫県知事表彰  
優良いずみ会 阿那賀いずみ会（西淡支部）



株式会社森長組  
年次有給休暇の取得日数を、年間平均12日以上、最低でも一人当たり8日以上取得できるように促進します  
※宣言内容の全文は、市ホームページをご覧ください